

中国における日本アイドルの字幕組に関する研究

——その実態と諸特徴について——

李 亦 雪

要旨：本論文では、これまでほとんど取り上げられることのなかった、中国において活動している日本アイドルの字幕組に焦点を当て、その実態と諸特徴について明らかにした。調査方法は、中国における日本アイドル字幕組の参加者9名と見る側の利用者8名への半構造化インタビュー調査である。これらの17人のインタビュー結果を、5つの問い対して答える形でまとめた。

その結果、アイドル字幕組は、好きなアイドルの知名度を上げるために協力した結果の産物であり、そのことによってアイドルファン同士の人間関係と集合的なアイデンティティを供給する、ファンにとって必要不可欠の存在となっていると結論付けた。

キーワード：字幕組；アイドル；ファン

はじめに

本稿の目的は、中国で活動している日本アイドルの字幕組に焦点を当て、その実態と諸特徴を明らかにすることである。

字幕組（英語：Fansub）とは、海外文化の作品に自国の字幕をつけ、インターネット上で共有する愛好者のコミュニティのことである。字幕組は、その出現以来、非営利的であり、海外文化と密接に結びつけられ、海外の文化と自国の国民との橋渡し役として重要な地位を占めている。

そして、中国において日本のアイドルの知名度を上げ、人気を支えているのも、アイドル字幕組である。アイドル字幕組は、1人のアイドル、または1つのアイドルグループだけに注目し、そのアイドル（グループ）に関わるコンテンツのすべてを翻訳する。このように、アイドル字幕組は、中国における日本のアイドル文化の普及に一役買っているにもかかわらず、その実態や他の字幕組と比較した場合の特徴などについて、ほとんど研究されていない。

本稿の第1章では、字幕組と作業の流れを説明する。第2章では、本研究に関する先行研究を検討した上で、本稿の問題意識を提出したい。第3章では、本研究の研究方法、研究対象と偏差について説明する。第4章では、5つの観点からインタビュー結果を分析する。第5章では、本研究の結論をまとめ、今後の課題について説明する。

1. 字幕組の説明

1.1 字幕組について

字幕組とは、字幕制作愛好者コミュニティである。一般的に、海外の視聴覚文化作品に自国語の字幕を付け、中国国内の動画サイトに無料で公開しているコミュニティである。字幕組は海外の文化との懸け橋として、メインカルチャーや正統な文化とは異なるニッチな好みを提供している。字幕制作に携わるのは、ほとんどが海外文化のファンである。海外作品に自国語の字幕を制作し、インターネット上で公開するという字幕組の活動は、海外文化の発信という意味がある。彼らは自らの能力と余暇を利用し、言語、国境などの壁を

越え、自国の潜在的な視聴者を引き込む。

日本アニメ字幕組を中心に論文を発表している袁陽によれば、中国で初めて出現した字幕組は日本アニメの字幕組であるが、現在では様々なドラマ、映画などを翻訳する字幕組が存在している(袁陽、2017)。同じく日本アニメ字幕組を中心に論文を書いた程遥は、現在中国国内ではアメリカドラマ、日本アニメを筆頭に、イギリス、韓国、日本、タイ、ドイツやスペインの番組やドラマなど、あらゆるジャンルを扱っており、日本アニメの字幕組だけでもピーク時には 150 組以上存在したと指摘している(程遥、2017)。

今日、字幕組は文化的コミュニケーションの過程で無視できない存在になっている。近年から、中国広電総局が海外作品に対する規制が厳しくなっているが、「上は政策があるが、下は対策がある」の精神を貫く字幕組はまだ存続している。本論文の研究対象は、巨大な日本語系の字幕組の 1 つであるアイドル字幕組である。

1.2 作業の流れ

この項では、字幕組の構成と作業の流れを紹介しておきたい。

袁陽によれば、アニメ字幕組の構成は一般的に、動画データ部、翻訳部、校閲部、時間軸部、発表部に分けられている。一部の字幕組では、字幕のフォントや色を変える特効部、そして宣伝用ポスターを作る美術部が設けられている。

また同じく袁陽によれば、字幕制作の手順は次のようになっている。まず、動画データ部の人が映像作品のデータを獲得する。方法は、テレビ録画のデータを直接使う、あるいはダウンロードサイトから他人がアップした動画をダウンロードするなどである。次に、動画データを翻訳部の人に渡す。そして、翻訳部の人々が翻訳の仕事を始める。翻訳が終わった後、校閲部の人によって校閲が行われ、間違いが修正され、また翻訳部が翻訳できなかった部分も補われる。したがって校閲部は重要な役割を担うが、担当者は日本語能力が高く、しかも日本の文化に詳しい人である。それか

ら、校閲された原稿が時間軸部に渡され、映像データにつけられる。最後に、完成した作品は発表部によって、各掲示板やクラウド、動画サイトにアップされる。

特効部がある場合、所属メンバーが時間軸部から渡された文字のフォントや色を変える。また、美術部がある場合、翻訳する動画のポスターを作る。ポスターには、動画に字幕をつける仕事に参加した全てのスタッフの名前がある(袁陽、2017)。

2. 先行研究と問題意識

2.1 先行研究

国会図書館の雑誌検索で、「字幕組」を検索すると、3 件しか該当しない。それは、袁陽の「中国における日本アニメの伝播と字幕組の役割：アニメ字幕組の存在を中心に」(2017)、程遥の「P2P ファイル共有のコミュニティと秩序：字幕組のファイル配布を題材に」(2017)と、湯天軼の「字幕という形象、翻訳という享受：中国における日本アニメ字幕組とその翻訳形式について」(2017)である。共通点として、研究対象は日本アニメ字幕組である。中国の CNKI¹で、「字幕組」を検索すると、学術刊行物文献が 380 本あり、博士論文数が 10 本ある。さらに、「日本語字幕組」で検索すると、9 本しか該当しない。そのなかには、博士論文が 2 本あり、学術刊行物文献が 2 本ある。

これらの日本語字幕組に関する先行研究は、大きく 3 つのテーマに分けられる。すなわち、(1) 翻訳に関するもの、(2) 著作権および経済問題という字幕組の問題点に関するもの、(3) 字幕組の役割に関するもの、の 3 つである。ここではそれらに加え、字幕組内の規範と現状および字幕組に参加する動機に関連する先行研究を紹介したい。

翻訳に関する多くの研究は、言語学を専門とする学者によって行われている。主に翻訳学の観点から、個性化されたコンテンツや翻訳スタイルなどの特性を研究してきた。李凌達によれば、字幕

組の翻訳作品は、異なる文化的文脈の間で変換された言語記号の再創造と革新を体現しており、この革新は無から生じるものではなく、字幕翻訳者が異文化間への深い理解に関連している。翻訳者は、視聴者の嗜好を深く理解することにより、現地の文化や価値観などに同調している。字幕組のメインプラットフォームである SNS は、インターネット時代特有の文化を生み出し、異文化コミュニケーションにおける新たな現象となっている（李凌達、2016）。現象学の視点から、湯天軼は、アニメの字幕の作成過程に焦点を当てる。中国における日本アニメ字幕組による翻訳は、多彩な字幕効果によって単なる言語活動としての翻訳を超越している。彼らは、字体や配色、アニメーション効果、ロゴなどを使って、中国語に転換した台詞や主題歌歌詞を装飾している。つまり、単に内容を翻訳するだけでなく、翻訳そのものを楽しむ方向に向かっているという（湯天軼、2017）。

続いて、字幕組の抱える問題に関する指摘を紹介しておこう。王彤・陳一は、法律的・文化的な意義を主張することで字幕組を擁護し、字幕組の存続と発展に対する理論的な裏付けを提供した。彼らは、字幕組の共有と交流という理念は、字幕組が法律の下に守られるべき理由になると主張している。さらに重要なことは、一般の視聴者が海外作品に「刺激」を受け、それによって創作意欲を持ち、一般の視聴者（潜在的生産者）が消費者から二次創作者に変わり、海外作品の伝播の民主化を促進することである（王彤・陳一、2014）。馬春花・方亭は、字幕組にとって資金と著作権が最も大きな問題だと指摘した。字幕組は、広告収入が不十分で、サーバーなどのハードウェアの維持費は組内の参加者からの集金で賄っていることが多い。その上、字幕組が投稿した字幕付きの動画は、個人や動画サイトに盗用されることが多い。著作権の問題自体が字幕組の擁護を難しくしている（馬春花・方亭、2016）。字幕組の発展の問題点とその対策について、林青華も経済な問題点を指摘している。字幕組は非営利であり、無償

で活動していることはよく知られている。しかし、字幕組の運営には、サーバーの購入やウェブサイト構築・運営など、資金が必要である。日々の運営を組内の参加者からの寄付や利用者からの協賛に頼ってきたため、常に継続が困難な状況であった。その後、一部の大手の字幕組は、自らの名声を利用してウェブサイトに商業広告を出すようになったが、その収入はウェブサイトの維持に使われ、組内の参加者は依然として無報酬で労働を提供している（林青華、2016）。

字幕組の役割について、何劍青は、字幕組は、多くの海外作品を中国の文化市場にもたらし、多様性を促進し、国内視聴者のニーズを満足させてきたと指摘する。これは同時に、視聴者の海外文化への理解を深め、創作意欲を刺激し、国内の文化環境を繁栄させることにもつながる（何劍青、2017）。袁陽は、日本アニメ字幕組の役割について、以下のように指摘した。字幕組が出現した根本的な原因は国による制限で、最も基本的な原因は大多数のアニメファンは日本語ができないことである。そのため、第1に、字幕組は言語の壁を破る存在である。第2に、内容を翻訳すること自体は言語の加工なので、翻訳者の自己主張を訳文に入れることにより、字幕組はアニメの新たな見方を作り上げる存在でもある。第3に、字幕組は間接的に中国での日本アニメを含む国内外のサブカルチャーの伝播を支えている人材を育成する存在でもある（袁陽、2017）。さらに、楊嫚は、字幕組が日本アニメの海外の伝播にどのような役割を果たしているのかに対し、3つの観点を指摘している。すなわち、a. 視聴者のメディアアクセス権を強化する²、b. クロスコミュニケーションにおける文化的なディスカウントを削減する³、c. 潜在的な視聴者を開発する、の3つである（楊嫚、2012）。呉燭は中国のアニメ字幕組のマイナスイメージとポジティブなイメージを考察した。まずマイナスイメージは、a. 中国本土のアニメの発展がさらに制限されること、b. 検閲されていない作品の流布の隠れた問題点の2つである。後者は例えば、暴力の画面や性的な画面など、幼い子供

に悪い影響を与えることが挙げられる。ポジティブな影響は、a. 中国国内のアニメファンの鑑賞力と創造性をはぐくむこと、b. 「知日派」の育成と今後の日中関係の発展することに役に立つこととしている（呉燭 2010）。

今紹介してきた字幕組の役割をまとめると、概ね以下の 4 つとなる。第一に、字幕組が出現した根本的な原因は国による制限で、最も基本的な原因は大多数のアニメファンは日本語ができないことである。従って字幕組の登場は、利用者が海外作品にアクセスすることがより容易になった。第 2 に、翻訳そのものはある程度二次創作であり、言語加工でもある。翻訳者は自らの用語で翻訳すると、利用者にとって、異文化とのアクセスを容易にする一方、新たな見方を作り上げている。第 3 に、元々異文化に興味を持っていない人を開発できる。第 4 に、字幕組から影響を受け、アニメ・マンガの関連の仕事をし始める人が増えており、字幕組が間接的に日本文化の中国における伝播を支える人材を育成している。

そのほかに、字幕組内の規範と現状について、ニュースメディアを専攻とする孫黎は、以下ように指摘した。字幕組に入ろうとする人は、無償で労働することをいとわないだけでなく、教育資本や技術資本など社会的に認められた証明を提供できることが必要である。これは、字幕組が高い品質の作品を提供することを確保するための重要な前提条件でもある。字幕組にはメンバーが同時に他の字幕組に参加することは許されないという規則があり、他の字幕組との間に潜在的な競争が存在している。また、字幕組への感情について孫黎は、組で過ごした時間とともに、完成した作品が組内の参加者や外部の利用者に認知されることこそ、プラスの効果やインセンティブが生まれ、個人の満足感が高まり、字幕組との同一性や感情的な結びつきが高まると指摘した（孫黎 2014）。字幕組の間の競争については、江寧も報告している。競争は、一方で彼らの翻訳にますます磨きをかけ、他方で字幕制作者にチームとしての名誉と達成感を与えてくれる。これが仲間と活発に競争

しながら、自分の可能性を発見し、自己の価値を認めると述べた（江寧、2011）。林青華は、字幕組は成立した最初の頃、流行しているアニメやドラマなど何でも翻訳していたが、その後徐々に独自のスタイルを確立していると指摘した（林青華 2016）。つまり、字幕組は個々が独立した存在であり、競い合いながらそれぞれの能力を高めていると言えよう。

その場合、メンバー選考は重要であると思われる。アニメ字幕組のメンバー選考の仕方について、何劍青によれば、募集者の日本語能力、空き時間、熱意が重視され、能力を伸ばす目的で字幕組に入りたい人は敬遠される。理由として字幕組は自分の強みを伸ばすのではなく、アウトプットすることを中心に行っているからである（何劍青、2017）。それでは、字幕組に参加者はどのような動機で参加するのだろうか。江寧は次のように指摘した。アメリカドラマのファンは、良いストーリーや結末を、できるだけ早く見ることを望んでいる。字幕組は、より優先的に見られることを楽しんでいるという（江寧、2011）。呉燭はアブラハム・マズロー⁴の「欲求のピラミッド⁵」を用い、字幕組の参加者の動機について、特定のグループ内で社会的欲求を実現するためであると指摘した（呉燭、2010）。

以上のように、日本のドラマやアニメ字幕組を研究対象として論じた文献はあるが、それほど多くはない。さらに、アイドル字幕組に関する研究はほとんどない状況にある。しかし、日本ドラマやアニメの字幕組に関する知見は、必ずしもアイドル字幕組に当てはまるとは限らない。そのため、中国における日本アイドルの字幕組の現状やその役割について、明らかにする必要がある。

2.2 問題意識

海外のアイドル産業が急速に発展し、中国にも普及してきた。その際、アイドルの海外普及に大きな影響を与えているのが、字幕組の存在である。しかしながら、字幕組に関する研究は、前節で指摘したように乏しい状況にある。さらに、そ

のなかの1つであるアイドル字幕組はほとんど研究されておらず、その実態はほとんど知られていない。そこで本研究では、日本アイドルの字幕組の実態とその役割等について明らかにすることを目的とする。

具体的には、本研究では、字幕組の参加者と見る側の利用者のインタビューを通し、5つの問題を解決したい。

1つ目は、アイドル字幕組は一体どのような構成を持っているのか、どのようなシステムで運営されているのかという問題である。

2つ目は、字幕組の活動に対する違法性の認識という問題である。

3つ目は、ファンたちが字幕組の活動に携わる理由は何なのかという問題である。

4つ目は、中国人ファンにとってのアイドル字幕組はどのような役割を担っているのかについてである。

5つ目は、アイドル字幕組の際立った特徴である連合字幕組はどのような存在なのかという問題である。

これらの5つの問いに答えることで、これまで報告されてこなかったアイドル字幕組の実態と特徴等について、明らかにしたい。

3. 調査概要

3.1 研究対象と方法

本研究は、インタビュー調査に基づいて考察を行っていく。インタビュー調査は半構造化インタビューを行う。収集した音声データは、日本語に翻訳して分析する。

2022年6月から7月にかけて、アイドル字幕組に関する質問を主に、字幕組に所属している(していた)、つまり字幕組の経験を持っているファン9名、そして字幕組の経験のない利用者8名、合計17名にインタビューした。調査時間は一人あたり30分から2時間までであり、調査手続は主に WeChat ビデオインタビューと対面インタビューである。

調査はスノーボールサンプリングで行い、10人の友達と、友達から紹介してもらった5人にインタビューする予定であったが、紹介してもらった対象者からさらに2人を紹介してもらったため、調査対象者は17名になった。なお、この調査は、甲南女子大学研究倫理委員会の承認を得て実施されたものである(承認番号 2022005)。

3.2 対象の特徴と偏差

字幕組メンバーのなか、翻訳を務めるファンは日本語能力がN2～N1である。これは、JLPT 日本語能力試験⁶の基準により定められ、よく字幕組の審査の条件として使われる。袁陽によれば、校閲部の担当者は全員が日本語能力が高く、しかも日本の文化に詳しい人である(袁陽、2017)。校閲が翻訳より高い日本語能力を持つ必要があり、つまり、N1レベルが必要となっていることがわかる。この点は、アニメ字幕組と同様である。

今回のインタビュー対象は、20代14名、30代2名、年齢不明1名が含まれる。特に、字幕組メンバーは全員20代の女性である。因みに、字幕組の管理人へのインタビューのために、1人の男性ファンにインタビューを依頼したが、断られた。字幕組の管理者という立場のため、字幕組の情報が露出してしまい、字幕組に悪影響を与えるのではないかと恐れているためである。このことから、現在の字幕組は、公にしづらい存在であることがうかがい知れる。

字幕組に参加している(していた)期間はほぼ大学生の時期にあたり、社会人になると、暇な時間が大幅に減るなどの様々な原因により、字幕組をやめるしかないことが多い。インタビューした時点でまだ字幕組に参加していた者は2人のみである。他は既に字幕組をやめており、字幕組の参加者から利用者になっている。そのため、字幕組そのものに関する証言はやや古くなっている可能性がある。また、今回のインタビュー対象者は、1名を除いて、すべて女性である。その結果、ジェンダーバイアスが生じる可能性もある。この点

も留意しておく必要がある。

4. 研究結果

アイドル字幕組は、現在において中国で最も有名な動画サイトである bilibili⁷ という動画サイトに依存し、自らのアカウントを持っており、アイドルに関連する動画を投稿している。そのほか、ウェイボー⁸ にも自ら字幕組のアカウントを持っており、bilibili で動画を投稿した後、同時にウェイボーでも動画のリンクを付けて利用者のファンに報告する。

アニメやドラマ字幕組では、あるシーズンが終わると、自分の好みに合わせて新しい翻訳作品を探し翻訳する。他方で、アイドル字幕組の場合は、1 人のアイドル、または 1 つのアイドルグループだけに注目している。つまりアイドル字幕組の対象は、最初に決まっているのである。アイドル字幕組が翻訳する内容は、そのアイドル、またはそのアイドルグループに関連する全てのものである。例えば、出演した番組、映画、ラジオ、コンサート、公演、雑誌、ライブ配信、舞台劇など、そしてたまにアイドル本人が出演していなくても、他のアイドルがそのアイドルに言及した部分を翻訳することもよくある。つまり、対象のアイドルをピーアールする効果またはプラス影響のある内容を見つけ、翻訳し、ネット上で投稿し、より多くの人に対象のアイドルの魅力をアピールすることが、アイドル字幕組の役割である。

各アイドル字幕組の名前は常にそのアイドルの個性やエピソードに関連している。一旦名付けられれば、ほぼ変えることもない。その上、各字幕組が自らのロゴを持っており、映像のオープニングの画面に置かれることが多く、ロゴと共に字幕制作に関連するファンのニックネームも映される。

以上が日本アイドル字幕組の概要である。以降は、インタビュー結果にもとづいて、第 2 節第 2 項で述べておいた、5 つの問いに対する回答を提示する。

4.1 字幕組の構成

まず、アイドル字幕組の構成員についてである。アイドル字幕組の場合も、アニメ字幕組と同じく、構成員は学生が中心となっている。しかし、アイドル字幕組の場合は、その規模は完全にそのアイドルの人気により決まる。人気の低いアイドルの字幕組にとって人員不足が深刻な問題であり、他のアイドル字幕組の参加者が兼任することもよくあり、各組の内部は常に流動的な状態である。つまり、アニメやドラマ字幕組と異なり、参加者が同時に複数の組に参加することは禁止されていない。

また、アニメ字幕組の場合、メンバーの選考は、募集者の日本語能力、空き時間、熱意が重視され、能力を伸ばす目的で字幕組に入りたい人は敬遠される (何剣青、2017)。しかし、アイドル字幕組の選考は、能力よりも熱意や空き時間を中心に行われており、翻訳や校閲以外の職ではゼロから教えられることが一般的である。

大規模のアイドル字幕組では、アニメ字幕組と同様に、翻訳役や校閲役を募集する時、単に JLPT 日本語能力試験を参考にするだけでなく、自らの日本語能力テストを行うことがよくある。

各アイドル字幕組は独自の主張があり、組内でのどのような話題が話せるか話せないかまで細かく、ルールとして規定されており、複数の字幕組に兼任することが禁止されていないけれども、ルール違反の場合は罰されることがある。それらの規則を受け入れることがアイドル字幕組に参加する前提となっている。

4.2 活動に対する違法性の認識

袁陽によれば、2009 年から中国広電総局によって新たなアニメ・漫画・ドラマ・映画に対する管理方針が発表され、中国のサイトにそれらの作品をアップすることが禁止になり、当時多くの字幕組は恐れ、動揺したという (袁陽、2017)。字幕組の活動は、法律的にグレーゾーンにある。場合によっては、逮捕される可能性もある。にもかかわらず、字幕組の活動は止むことがない。中国

の法律では、字幕組が行った翻訳や投稿した映像は、明らかに原作の許可を得ていないものであり、著作権侵害行為であるとはっきり指摘されている。この著作権の問題が、字幕組の抱える大きな問題である。

既に紹介したように、字幕組の抱える問題として、経済的な問題もある。字幕組は非営利であり、無償で自らの労働を提供している。また、字幕組の運営には、サーバーの購入やウェブサイトの構築・運営など、資金が必要である。その資金を組内の参加者からの寄付や利用者からの協賛に頼ってきたため、継続が困難な状況であった。

著作権の問題と経済的な問題は、実はリンクしている側面がある。今回のインタビューでわかるが、違法性の認識に関しては、当の字幕組からメンバーが報酬を得ているかどうかに関連しているからである。字幕組に対する違法性の認識について、インタビュー内容により以下のことがわかった。今回の字幕組経験者の答えから見ると、字幕組からお金をもらっていないため違法性の認識がないという考えが多い。違法性の認識のある2人は、中国でより多くの人に自分の好きなアイドルを知ってもらいたいためやり続けていた。しかし、「もし機会があれば、中国の字幕組のことをアイドル本人に伝えますか」という質問からの答えによれば、字幕組のことをアイドル本人伝えたいと答えた者はいなかった。国境を越え、字幕組のことをアイドル本人に伝えることもない。このことからわかるように、字幕組の参加者たちは一定の違法性の認識を持っていると思われる。他方で、字幕組の利用者は、単に見る側であるため、参加者より違法性の認識が薄いことがわかった。

4.3 字幕組に携わる理由

4.3.1 字幕組に参加するきっかけ

インタビュー対象8名の利用者のなか、6名が日本語能力を持っている。翻訳者と校閲者以外の職は日本語に対し特別な要求はなく、ゼロから教えることも一般的である。したがって、筆者は利用者に字幕組に参加しない理由を聞いた。主に2

つの理由である。1つ目が「字幕組に参加すると自由な時間が大幅に減る」という理由であり、2つ目は「語学能力の不足のため」である。

それでは、参加者たちはどのような契機で字幕組に入ったのか、どのような動機を持っているのかを考察したい。まず、参加者たちの参加のきっかけから述べる。インタビューした内容により、字幕組に入るきっかけは、2種類に分けられる。1つ目が「字幕組の新人募集の広告を見て自発的に連絡し参加した」であり、2つ目が「字幕組に所属しているファン仲間に誘われた」である。

字幕組の参加者は、ウェイボー上で新人募集の広告を見かけ、それを見て自発的に連絡する。実際に入れるかどうかの判定があるかどうかは字幕組の規模による。審査がある場合は、入るために審査を通過しなければならない。

4.3.2 字幕組に参加した動機

先行研究で紹介した通り、呉燭はマズローの「欲求のピラミッド」を用い、字幕組の参加者の動機について、特定のグループ内で社会的欲求を実現するためであると指摘した（呉燭 2010）。江寧は、ドラマ字幕組に参加する動機について以下のように指摘した。ドラマのファンは、良いストーリーや結末を、できるだけ早く見ることを望んでいる。字幕組の参加者は、より優先的に見られることを楽しんでいると述べた（江寧、2011）。

アイドル字幕組に参加する動機について、インタビュー内容によれば、以下の4つが確認された。①アイドルのコンテンツを早く見たいため、②ファングループのなか、優越感が持たれるため、③日本語や日本文化の勉強のため、④好きなアイドルに何らかの貢献をしたかったから、の4つである。

最も注目したいのは、やはり「④好きなアイドルに何らかの貢献をしたかったから」である。アイドルの字幕組であるため、当然と言えば当然の結果であろう。

今までの字幕組に関する先行研究には、いずれも字幕組の無償性が強調され、全員が献身的な精

神で参加しているとされていた。しかし、アイドル字幕組は報酬を求めないわけではないようである。林青華は、アニメやドラマ字幕組は、長年における翻訳したものの品質や数などにより自らのブランドや規模の拡大を望むと指摘した（林青華2016）。その一方、アイドル字幕組は好きなアイドルの知名度アップを求めているのである。この点が両者の違いの一つである。

4.3.3 活動を続ける理由

最後に、字幕組に参加した後、活動を続ける理由についても述べておきたい。袁陽は、作品に字幕組のロゴが付くこと、制作スタッフのニックネームを入れることを中国の字幕組の特徴として見なしている（袁陽、2017）。アイドル字幕組も同じく自らのロゴを持っており、映像のオープニングの画面に、ロゴと共に字幕制作に関連する参加者のニックネームも示されることが多い。字幕組の参加者へのインタビューによれば、「画面に字幕制作関連のファンのニックネームが映るのですが、これは必要ですか」という質問に対し、全員が「必要だ」と回答した。

こうした共同作業を通じての達成感あるいは優越感は、ある種の報酬ともいえるのである。参加した動機ではないが、無償であるがゆえに、こうした精神的な報酬が重要であると言えるだろう。

孫黎は、字幕組への感情については、組で過ごした時間とともに、完成した作品が組内の参加者や外部の利用者に認知されてこそ、プラスの効果やインセンティブが生まれ、個人の満足感が高まり、字幕組との同一性や感情的な結びつきが高まると指摘した（孫黎2014）。また呉燭は、マズローの言葉を使いながら、「特定のグループ内で社会的欲求を実現する」ことが、字幕組への参加の動機であると述べた（呉燭2010）。これらのことは、アイドル字幕組にも当てはまる。活動をやり続ける理由として、「組内の人間関係」が挙げられているからである。

以上のことから、字幕組を続ける理由として、オープニングの画面に自分のニックネームが表示

されることによる達成感あるいは優越感があること、字幕組がファン同士で交流するうちに関係性重視になっていくことの2つが明らかになった。

4.4 字幕組の役割

4.4.1 認知の余剰の集合体である字幕組

林青華は、Clay Shirky⁹の「認知の余剰」理論を字幕組文化に応用した（林青華2016）。まず、「認知の余剰」について説明しておきたい。Clay Shirkyは自らの著書『Cognitive Surplus: Creativity and Generosity in a Connected Age』¹⁰で認知の余剰の基本的な考え方を示した。認知の余剰とは、自由な時間を持ち、豊富な知識の背景を持ち、共有したいという強い欲求を持つ人々が、その時間を結集して協力して大きな社会的効果を生み出すことである。人間は、「消費（情報を受け取る）」、「共有（情報を発信する）」、「創造（新しい情報を提供する）」というニーズがある。昔の人々が情報を消費していたのに対し、今日では高い教育レベルを持つ多くの人々がインターネットを通じて情報を共有し、創造することができるようになった。

認知の余剰がどのように生じるのかについて説明したい。Clay Shirkyによれば、3つの要因を必要とする（Shirky2010=2012）。

- ① 教育を受けている人々の数自体が急増していると共に、彼らが支配できる自由な時間も増えること。
- ② インターネットの技術が発展していること。
- ③ 内発的な動機¹¹で動き、つまりこの行動は強制的ではなく、自発的に行われること。

認知の余剰を理解することにより、字幕組の出現とその現象の理由を容易に理解することができる。林青華は認知の余剰を応用し、字幕組の存在を以下のように述べた。字幕組は、参加者の認知の余剰を共有する現象である。字幕組の誕生は、参加者の集合的な貢献であり、彼らが貢献しているのは個々の認知的余剰である。ほとんどの参加者は高学歴で、空いた時間に自らの知識を共有し一緒に大きな価値のあるものを作り上げるのである。さらに、字幕組は、参加者の認知の余剰の集

合体であるだけでなく、利用者からのフィードバック、補充、コメントも不可欠な要素であるため、利用者の認知の余剰の集合体でもある。字幕組の参加者であろうと一般ファンの利用者であろうと、全員が自分の認知の余剰を共有することで、字幕組の発展に大きな影響を与えている（林青華 2016）。

このように、認知の余剰の集合体である字幕組は、中国人のアイドルファンにとってどのような役割を担っているのだろうか。

4.4.2 言語の壁を克服し、ファンを作り出す役割

まず、インタビュー対象がアイドルファンになったきっかけを紹介し、それと字幕組の関連性を明らかにする。アイドルファンになったきっかけについては、インタビュー対象者からの答えを2種類に分けることができる。すなわち、①友達からの影響により、紹介されたアイドルに関する動画や、同人小説や、番組などを見てからファンになったこと（計5名）、②アイドルが出演した番組、ドラマ、コンサートなど、その他に、ファンが作った二次創作の動画を見てから、興味を持ち始めネット上で様々なアイドルに関するパフォーマンスの映像を見たり音楽を聴いたりしてファンになった（計11名）ことの2つである。

中国ファンにとって、当然のことながら、言語が壁となる。現在の中国は全てを輸入していないため、字幕組に依存するしかない。つまり、需要供給の不对等のため、字幕組が必要であることがわかる。

先行研究の紹介の際に、字幕組の役割を4つにまとめた（第2節第1項）。ここで述べていることは、そのうちの1つ目と3つ目に当たる。

字幕組の使命は、より多くの人にアイドルを紹介し、より多くの人にアイドルを好きになってもらうことである。日本語の入門段階であっても、コンテンツの内容に理解することが困難であり、字幕組が存在していなければ、ファンにならなかったという答えが今回のインタビューで16人いた。つまり、言語の壁を取り除き、潜在的なファ

ン又は新規ファンの開発のために字幕組の存在が必要であることがわかる。

4.4.3 アイドルのイメージを作り出す役割

字幕組は、日中文化の考え方が違うため、アイドル字幕組は翻訳する際に、アイドルの性格を反映した言葉を使い、利用者がそのアイドルをより深く理解できるように工夫している。単にアイドルの外見だけでなく個性的な魅力を感じることができるようにしている。日本の生活を直接に接することのない中国人にとって、字幕組が翻訳した内容により日本のイメージがつくられる。しかし、実際に日本に来たときに、字幕組から知った日本との間にズレが生じる可能性がある。それは、翻訳のズレと、翻訳者自身の主観的な考えが加わった結果なのである。言い換えると、字幕組がアイドルのイメージ或いは日本のイメージを創造できる。この役割は、先行研究のところで述べた役割の2つ目と重なる。つまり、ドラマやアニメの字幕組と同じ役割を持っていることがわかる。

4.4.4 ファンを統合する役割

馬春花・方亭は、参加者たちのアニメ文化に対する愛情が、字幕組による無報酬の中国語翻訳という形でのアニメ作品の普及を促進し、字幕組の周りに集まったアニメファンが、自発的に仮想ネットワークコミュニティを形成してファングループとなると指摘する（馬春花・方亭、2016）。このことは、アイドル字幕組にも当てはまるといえるだろう。利用者は字幕組が投稿した字幕付きの映像を通して、アイドルをより深く知ることができる一方、字幕組が投稿したコンテンツはファン同士との話題を提供し、bilibili やウェイボーがコミュニケーションの場となるため、アイドル字幕組の存在はファングループの形成に重要な役割を果たしている。

4.4.5 字幕組の逆機能について

これまでインタビューの中から読み取ることの

できた字幕組の役割について述べてきた。しかし、字幕組の役割は、これまで述べてきたような、ポジティブなものばかりではない。

日本アイドルの場合は、公演やコンサートなどの生放送と、アイドルメンバーからメールが送られてくるサービスといったコンテンツが有料であり、課金しなければならないことが多い。しかし、字幕組が無償でコンテンツを提供すると、ファンがコンテンツにお金を払うという意識が生まれにくくなるという可能性がある。

また、あるインタビュー対象者は、アイドル字幕組が存在しなければ、つまり中国ファンたちが字幕組に依存できなければ、より多くの人が日本語の勉強をし、アイドルの応援することになると語った。このことは、字幕組の存在に賛否両論があることを示している。字幕組の翻訳に依存することで満足し、日本語の学習への動機付けが削がれる可能性がある。字幕組に依存し、日本語の学習への動機付けを削ぐことは、字幕組の逆機能の一つと言えるかもしれない。

しかし、今回のインタビュー内容により、字幕組がなければ、ファンにならないという答えが今回のインタビューで 16 人いた。インタビュー対象者の情報によれば、字幕組の参加者と利用者のなか、日本語能力 N2 レベル以上を持っている者が 13 人いる。つまり、ファンになった時点では日本語ができなかったけれども、インタビューした時点では既に日本語能力 N2 レベル以上を持っているのが 13 人いる。このように、字幕付きのビデオを見てアイドルファンになり、日本語の勉強や日本への留学にも意欲的になるという、ファンの能動性を実証しているといえると同時に、先行研究で整理した役割の 3 つ目（これは先ほども指摘した）に当てはまることがわかる。

ここまでまとめると、アイドル字幕組の役割は、主には 3 つ明らかにできた。第 1 に、言語の壁を取り除き、より多くの潜在的なファン又は新規ファンを開発すること、第 2 に、アイドルに直接に接することのない中国人ファンにとって、字幕組が翻訳した内容によりアイドルのイメージを

構築すること、第 3 に、アイドルファンを統合すること、の 3 つである。

4.5 特徴となる連合字幕組

この節では、アイドル字幕組の際立った特徴となる「連合字幕組」について、その実態を明らかにしたい。

孫黎は、字幕組は、自らのスタイルと実力により、他の字幕組とは異なることを組内の参加者に明らかにしている。字幕組はそれぞれ独自のスタイルとグループの規範を持っており、それは組内の参加者が帰属意識を築くことができ、意識的に他のグループとは異なるようにしていると指摘した（孫黎 2014）。林青華によれば、アニメ字幕組やドラマ字幕組といった他の日本語系の字幕組では、互いに競争をすることがよく見られるという（林青華 2016）。

先行研究から分かるように、アニメやドラマ字幕組の間では、競争はあれども、協力することはない。兼任することは許されず、他よりも抜きんであろうとしている。しかし、第 3 節で指摘したように、アイドル字幕組は、“アイドルの知名度を上げる”という目的を持っているため、競争というより、協力することを好む。この点が、アニメ字幕組とアイドル字幕組との大きな違いと言えるだろう。

アイドルがコンサートや多人数での公演、テレビ番組などより大規模なイベントを開催する際、各アイドル字幕組の管理人がこのイベントに出演するアイドルの個人字幕組に協力を要請する。要請された個人字幕組は、組内のメンバーを連合字幕組に派遣する。こうして複数のアイドル個人字幕組が字幕制作を協力して行う。これは、通常より効率的である。能力の合理的かつ最大化された使用の具現化であり、品質も比較的高い。

連合字幕組は臨時的であり、特定のコンサートや公演などのコンテンツを翻訳するために編成され、字幕制作が終わるとすぐに解散する存在である。アイドル個人字幕組のように、映像のオープニングの画面に各字幕組のロゴや今回の字幕制作

に携わる参加者のニックネームが置かれる。

インタビューによれば、連合字幕組の経験のある参加者は5名がいる。これらの経験者たちへのインタビュー結果から、連合字幕組の実態について明らかにしていきたい。

インタビュー内容からわかるように、連合字幕組は、アイドルグループの活動や、普段より大きなイベントを行う際、限定される存在であるが、各個人アイドル字幕組が組内のベストを派遣するため、完成した映像がより高い品質のものになる。そして、完成するまでの時間を大幅に縮められ、効率性も高められる。最後に、連合字幕組の存在は、単に好きなアイドルのファンというアイデンティティを提示するだけでなく、アイドルグループのファンというより大きなアイデンティティを提示する役割を持っており、より大きな一体感を生み出しているのではないと思われる。しかし、デメリットとしては、連合字幕組の構成員は、各字幕組から派遣されたメンバーであるため、それぞれのスタイルを持っており、翻訳した内容のまとまりがないという状況もある。

アイドル字幕組はアイドルの知名度を上げるための存在である。したがって、アイドルの知名度を上げるという共通の目標を持っているからこそ、アイドル字幕組は競争というより、協力することを好む。つまり、連合字幕組は、各アイドル字幕組がアイドルの知名度を上げるという共通目的の産物といえる。これは、これまで先行研究で報告された字幕組にはない、アイドル字幕組のもっとも特徴的なところといえる。

5. 終わりに

5.1 結論

本論文では、中国における日本アイドルの字幕組の実態について考察した。字幕組の参加者9名と、見る側の利用者8名、総計17名へのインタビューを通じて、以下のような結論を得た。

第2節第2項で提出した5つの問題に参照しながら、それぞれの結論を論じる。

1つ目は、アイドル字幕組は一体どのような構成を持っているのかという問題である。アイドル字幕組の構成員はアニメ字幕組と同じく、学生たちが中核となっている。規模はアイドル自身の人気により決まるが、アニメ字幕組と異なり、参加者が同時に複数の組に参加することがよくあり、各組の内部は常に流動的な状態である。アイドル字幕組の選考は、能力より熱意や空き時間を中心に考察しており、翻訳や校閲以外の職ではゼロから教えられることが一般的である。

2つ目は、字幕組に対する違法性の認識という問題である。インタビューの回答によれば、純粹に好きでやっていて、字幕組からお金をもらっていないため違法性の認識がないという考えが多い。違法性の認識のある2人は、中国でより多くの人に自分の好きなアイドルを知ってもらいたいからやり続けていた。しかし、「もし機会があれば、中国の字幕組のことをアイドル本人に伝えませんか」という質問からの答えによれば、字幕組のことをアイドル本人に伝えたい者はいなかった。国境を越え、字幕組のことをアイドル本人に伝えることもない。このことからわかるように、字幕組の参加者たちは一定の違法性の認識を持っていると結論付けた。そのほかに、字幕組の利用者は、単に見る側であるため、参加者より違法性の認識が弱いことがわかった。

3つ目は、字幕組に所属しているファンたちはどのような理由で字幕組に携わっているかである。参加者の参加のきっかけは2種類に分けられ、1つ目が「字幕組の新人募集の広告を見て自発的に連絡し参加した」であり、もう1つが「字幕組に所属しているファン仲間に誘われた」である。アイドル字幕組に参加する動機は、①アイドルのコンテンツを早く見たいため、②ファングループのなか、優越感が持たれるため、③日本語や日本文化の勉強のため、④好きなアイドルに何らかの貢献をしたかったから、の4つである。特に「④好きなアイドルに何らかの貢献をしたかったから」という動機がアニメやドラマの字幕組との違いの一つであり、アイドル字幕組は好きなア

アイドルの知名度アップを求めていることを示している。字幕組に参加した後、活動が続ける理由について、アイドル字幕組には、オープニングの画面に自分のニックネームが表示されることの達成感と優越感、字幕組がファン同士と交流する場を提供し、参加者は次第に関係性重視になっていくことが明らかになった。

4つ目は、中国人ファンにとっての「アイドル字幕組」はどのような役割なのかという問題である。主には3つ明らかにできた。第1に、言語の壁を取り除き、より多くの潜在的なファン又は新規ファンを開発すること、第2に、アイドルに直接に接することのない中国人ファンにとって、字幕組が翻訳した内容によりアイドルのイメージを構築すること、第3に、アイドルファンを統合すること、の3つである。

5つ目は、アイドル字幕組の一つの特徴である連合字幕組はどのような存在なのかという問題である。アイドル字幕組はアイドルの知名度を上げるための存在である。したがって、アイドルの知名度を上げるという共通の目標を持っているからこそ、アイドル字幕組は競争というより、協力することを好む。連合字幕組は、アイドルグループの活動や、普段より大きなイベントを行う場合に限定される存在であるが、各アイドル個人字幕組は組内のベストを派遣するため、完成した映像がより高い品質となる。アニメやドラマの字幕組と全く異なり、アイドル字幕組の独自の組織として、連合字幕組は、単に好きなアイドルのファンというアイデンティティを提示するだけでなく、アイドルグループファンというアイデンティティを提示する役割を持っており、より大きなファングループの一体感を生み出している。

以上の結論をさらにまとめ、アイドル字幕組の存在とは何なのかについて、結論を述べておきたい。アイドル字幕組は、何よりもアイドルの知名度を上げるための存在である。「アイドルの知名度アップ」という共通の目的により、ドラマやアニメ字幕組と異なり、各アイドル字幕組は協力することを好む。参加者が同時に複数の組に参加す

ることがよくあり、各組の内部は常に流動的な状態である。この協力の精神を最もよく表しているのが、連合字幕組の存在である。大きなイベントの翻訳を行う際に限定される存在である連合字幕組は、各個人字幕組から優れた人材が集められ、協力して一つの作品を作り上げる。その作品には、ファンから高い評価が与えられている。さらに、アイドルグループのファンというアイデンティティを提示する役割を持っており、より大きなファングループの一体感を生み出すことに成功しているのである。このように、アイドル字幕組は、好きなアイドルの知名度を上げるために協力した結果であり、そのことによってアイドルファン同士の人間関係と集合的なアイデンティティを供給する、ファンにとって必要不可欠の存在と結論付けることができる。

5.2 今後の課題

本論文は、中国における日本アイドルの字幕組に関する研究であるが、まだ多くの不十分な点がある。まず、インタビューする時点で字幕組に参加していたのは2名しかおらず、他は既に字幕組をやめている。最新データを獲得するためには、今後在籍している字幕組の参加者をインタビューする必要がある。

第2に、字幕組の参加者は全員女性であり、見る側の利用者にも一人の男性しかいなく、サンプルのジェンダーバイアスについては今後、より包括的に調査する必要がある。

第3に、日本には、地上波アイドル、地下アイドル、バーチャルアイドルなど、さまざまなカテゴリーがある。そのため、アイドル字幕組をより包括的に紹介したいのであれば、アイドル字幕組もアイドルのカテゴリーによって分類し、より網羅的な調査が必要である。

第4に、アイドル字幕組の歴史を整理していないことである。アイドル字幕組に関する先行研究が驚くほどに乏しい状況にあるため、今回の研究で歴史の整理ができなかった。

注

- 1 CNKI: China National Knowledge Infrastructure の略語。「中国學術雑誌全文データベース」をもとにした、中国最大の學術情報ウェブサイトである。(最終アクセス：2022 年 12 月 3 日)
- 2 視聴者のメディアアクセス権を強化する：楊(2012)によれば、観客は映画やテレビの製品に容易にアクセスでき、中国広電総局はそれに対する支配力が弱くなる。一方で、字幕組の登場は、国境を越えた配給のための自然言語の障壁を取り除き、検閲を軽減し、国内初公開までの時間を短縮する。
- 3 クロスコミュニケーションにおける文化的なデイスカウントを削減する：楊(2012)によれば、字幕は、映画やテレビの作品を再配信する前に、ある程度の加工が必要である。その目的は、異文化間のアクセスを容易にするために、製品の文化的・言語的特異性を低減し、現地のオーディエンスがよりアクセスしやすいように新しい意味や解釈を加えることである。
- 4 アブラハム・ハロルド・マズロー(1908-1970)：アメリカの心理学者。
- 5 欲求のピラミッド：アブラハム・マズローは人間の欲求を、自己実現欲求、承認欲求、社会的欲求、安全の欲求、生理の欲求の5段階に分けており、それらはピラミッド型に描かれる。この5段階の欲求では、生理の欲求や安全の欲求を低いレベルの欲求呼び、社会的欲求、承認欲求、自己実現欲求を高いレベルの欲求と呼ばれている。この理論によると、最下層の生理的欲求から、一つ一つの欲求を満たしていくことで、最終的には最高位の自己実現欲求に向かっていくという理論になっている。
- 6 日本語能力試験 JLPT (The Japanese-Language Proficiency Test) は、公益財団法人日本国際交流財団が主催する、日本語を母国語としない日本人学習者を対象とした日本語能力試験である。N1 レベル：一般的に、8000~10000 個の単語、800 個の文法を身に付ける必要がある。アニメや日本ドラマを字幕なしで視聴でき、元の言語の小説も理解でき、日本への留学や日本企業への就職に際して強いアピールになる。N2 レベル：一般的に、4000~7000 個の単語、200 個の中級文法を身に付ける必要がある。一部のアニメや日本のドラマは字幕なしで理解でき、日常会話は容易にできる。日本企業への入社には N2 以上の資格が必要である。(参考リンク：<https://zhuanlan.zhihu.com/p/300012780> 最終アクセス：2022 年 9 月 23 日)
- 7 bilibili: 2009 年 6 月 26 日に設立され、中国の若い世代が集中する文化コミュニティおよびビデオの Web サイトである。
- 8 ウェイボー：ウェイボーはミニブログを指す中国語であり、Twitter に類似した中国の SNS である。
- 9 Clay Shirky (1964 年ー現在)：インターネットテクノロジーの社会的および経済的影響を研究するアメリカ人の作家、コンサルタント、教師である。イェール大学を卒業し、ニューヨーク大学芸術学部のインタラクティブテクノロジー専門プログラムで講師としてニューメディアを教えている。
- 10 これは、Clay Shirky が 2010 年に出版した本であり、2012 年に北京大学の胡泳とハリスによって『認知盈余：自由時間的力量』に翻訳された。
- 11 内発的動機づけ：とある結果に向かっていくプロセスそのものや自身の内的報酬(充実感や自己実現)による動機付けのことを指す。

参考文献

- Clay Shirky、2010、*Cognitive Surplus: Creativity and Generosity in a Connected Age*, New York: Penguin Press (=胡泳、ハリス、2012、認知盈余：自由時間的力量、中国人民大学出版社)
- 袁陽、2017、「中国における日本アニメの伝播と字幕組の役割：アニメ字幕組の存在を中心に」、『Tobio critiques=トビオクリティックス：東アジアまんがアニメーション研究』(3)、105-127。
- 湯天軼、2017、「字幕という形象、翻訳という享受：中国における日本アニメ字幕組とその翻訳形式について」、『大阪大学日本学報』(36)、19-36。
- 程遙、2017、「P2P ファイル共有のコミュニティと秩序：字幕組のファイル配布を題材に」、『情報文化学会誌』(24: 2)、19-26。
- 李凌達、2016、「字幕組“神翻訳”的跨文化伝播研究」、『国際新聞界』No.06、62-79。
- 江寧、2011、「网络字幕組的粉絲文化解讀」、『宁波广播电视大学学报』、1-2、22。
- 楊嫻、2012、「字幕組在日本动画跨国伝播中的機能分析」、『国際新聞界』No.8、67-71。
- 馬春花、方亭、2016、「网络時代的盜火者：日本動漫字幕組伝播模式分析」、『伝媒』No.04、中国新聞出版研究院、61-63。
- 王彤、陳一、2014、「跨文化伝播下的字幕組：在看似侵權与違法的背后」、『伝媒觀察』No.04、14-16
- 何劍青、2017、「我国日本語字幕組的發展現狀の反思」、『芸術技術』No.04、413。
- 孫黎、2014、「中国网络字幕組文化研究——基於青年亚文化的視角」、武漢大学博士論文。
- 林青華、2016、「中国国内字幕組の伝播現象に関する研究」、鄭州大学大学院修士論文。
- 吳燭、2010、「伝播学の視角における国内日本アニメ字幕組の研究」、中南大学大学院修士論文。

り えきせつ

甲南女子大学大学院人文科学総合研究科
社会・文化環境学専攻現代社会コース